

高校生が連携して草刈りを実施している。当日はカフェあげつちにおいて、「草刈りカフェ」として、学生カフェプロジェクトを開催した。

2)「支援会ゆにまる」による学生カフェ

「支援会ゆにまる」は上土をフィールドにして、山賊焼バーガーなど、上土の店舗と連携した商品開発やデパートゆにっとにおけるカフェあげつち支店の出店などを行い、まちづくりと連携した学習活動を行っている。詳細は以下の通りである。

・4月28日 終日

松本山雅のパブリックビューイングに合わせて山賊焼プロジェクトの企画として学生カフェを実施した。

・8月8日・8月9日 終日

デパートゆにっとにおけるカフェあげつち支店の出店のための研修として、2日間にわたりカフェあげつちのスタッフに指導してもらいながらカフェの運営を行った。

・8月10日 終日

デパートゆにっとの宣伝として高校生の開発した商品をカフェにおいて提供するとともに、デパートゆにっとに向けてカフェ運営を実際に行った。

3)南安曇農業高等学校と本学学生による学生カフェ

本学と締結している高大連携協定の一環として、高校生の地域における実習の場としてカフェあげつちを位置づけて、南安曇農業高校の生徒をゆにまるや専門研究の学生が支援して学生カフェを開催した。いずれも本学学生の活動に併せて行った。

・6月16日・9月29日 終日

女鳥羽川の草刈りを地域住民、大学生、高校生が連携して行った事業に併せて、カフェあげつちにおいて「草刈りカフェ」を学生カフェプロジェクトとして開催した。南安曇農業高校で生産した農産物や加工品の販売に加えて、草刈りの実証実験としてつれてきた山羊や羊によるふれあい動物園をカフェ前で行った。

・11月3日 終日

市民祭における大学生の出店にあわせて高校生が学生カフェを開催した。

(2)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

学習会の活動発表については、3月に上土の関係者などを対象に実施する予定であったが、新型コロナウイルスの感染の状況から延期している。2020年度中に実施する予定である。

7. 地域資源を活かしたまちづくりの推進

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 増尾 均

(1)活動内容と成果

本事業は学生の参加に基づきながら、松本の「ひと」「もの」「こと」といった地域資源の発掘を行い、それらを活かしたまちづくりに取り組むものであり、具体的には、1)松本市田川地区渚のケヤキ着地型観光の地域資源として活用、2)松本中心市街の商店と連携して、歴史的資源(松商学園と上土とのかかわりなど)を掘り起こし、松本らしさを感じられる地域資源の発掘をこころみる。また地域の文化資源である松本電気館の保存・活用をすすめる、3)掘り起こされた地域の魅力を広くPRしていくために、チラシやパンフレットなどを作成して情報発信をするという3つの活動を行った。活動には観光ホスピタリティ学科の学生および地域住民等が参加した。

1)松本市田川地区渚のケヤキをめぐる取り組み

田川地区の松林邸には樹齢600年を超えるけやきが多数あり、歴史的な資源となっている。このケヤキを活かした地域づくりをさらに修学旅行や研修旅行を対象とした着地型観光の資源として練り上げるために以下の活動を行った。

①けやきまつり

地域住民を対象として松林邸のケヤキについてその歴史的意義などを知ってもらうために2019年4月29日にイベントを開催し、ケヤキに関する説明を行うケヤキツアー等を実施した。

②けやきっ子ひろば

ケヤキを子どもの自然体験や学習の場として活用

する実証実験として夏休みの子どもを対象としてけやきっ子ひろばを7月および8月に3回開催した。



けやきっ子ひろば

③落ち葉拾い

田川小学校の児童の総合学習の場としてけやきの落ち葉拾いを行う事業を実施し、11月に4回述べ120名の児童による実践学習を行った。

2) 中心市街地と連携した歴史的資源の発掘

中心市街地と連携した歴史的資源の発掘については、観光ホスピタリティ学科増尾ゼミ・向井ゼミが大正ロマンの魅力がまちづくりや地域振興における1つの資源になりうることを考慮し、大正ロマンの街として知られる上土町について考えることを目的として、「令和における大正ロマンの現代的意義と分析～懐かしき未来の創造～」として卒業研究に取り組んだ。具体的には、中央地区地域づくりセンターと連携した「昭和の松本を語る会」の開催など、松本市内の複数の地域(上土・二の丸・西堀・新村)でのお年寄りへの聞き取りを実施し、実際の松本市内の大正・昭和の暮らしや町の変化についての調査をした。2つめに、日本大学や明星大学との合同ゼミにおいて、現在の上下町周辺の街並みと大正・昭和時代の街並みの写真の比較・検討や、松本電気館の活用方法をはじめとした上下町の将来についてのディスカッションを行った。3つめに上下町内で上下商店街振興組合の方の講演や、上下町内に住む人々との話し合いなどを行う「まちづくり学習会」に参加し大正ロマンの意味について研究を行った。そして、大正ロマン(建造物)・商店街・仕事・服装の4つの観点から、インターネットや文献を使い調べたことも参考にしつつ、それぞれ上下町の検討・分析を行うとともに、上下町の代表的な資源・特長である映画館を活かした上下町の活性化について考察した。研究成果については「令和における大正ロマンの現代的意義と分析～懐かしき未来の創造～」

として取りまとめた。

3) 情報発信

以上の活動によって発掘された地域資源については、増尾ゼミ・向井ゼミによる卒業研究として取りまとめ関係者に配布するとともに、3年生の畑井ゼミによるディスプレイ展示や街並みを紹介するInstagramなどによる情報発信も行われた。ディスプレイ展示は、上下町の白鳥写真館の前にあるショーケースに歴史にちなんだ大正期の生活用品を展示する活動で季節に合わせてながら「冬の朝」などのテーマに沿った展示を行った。季節など定期的にテーマによって展示を変更した。また、「agetsuchi_matsu」というInstagramには、学生が撮影し取材した街並みなどの写真が掲載され、英文の説明文もつけられ、より多くの人に向けてまちの魅力を発信している。さらに撮影した写真を活用する方法としてポストカードを作成した。



Instagramでの情報発信

(2) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

学生による活動の成果は、論文「令和における大正ロマンの現代的意義と分析～懐かしき未来の創造～」としてまとめられ、関係者に配布された。しかし、3月に予定されていた地域における発表会についてはコロナの感染によって中止となった。またポストカードについては、その活用を予定していたが同じくコロナの影響で2020年度に延期している。また、Instagramは、頻繁に写真がアップされ注目を集め、全国的な規模の情報発信を実現することができた。